

海外留学への期待

—立教大学の国際化推進事例から—

Expectations of Study Abroad:

Global Initiatives of Rikkyo University

立教大学副総長 山口 和範

YAMAGUCHI Kazunori

(Vice-President, Rikkyo University)

キーワード：リベラルアーツ、リーダーシップ、海外留学

はじめに

21世紀にはいり、ICTの急速な発展とグローバル化の進行により、これまで経験したことのない変化の激しい時代を迎えました。その変化の波は我々の予想をはるかに超え、10年後をイメージすること、分野によっては数年後すら予測することが難しい時代に突入したといっても過言ではないでしょう。

世界はかつてのように、またいまも、多くの新たな問題に直面しています。一方、世界平和の追究は非常に困難な永遠の課題です。複雑化し不確実な予測困難なこのような時代こそ、ひと時の満足に留まることなく、変化を恐れず新しいことにチャレンジする勇気を持った若者が求められます。また、1つの科目や単独のディシプリンで解決できる問題ばかりではなく、複数の専門分野を融合させてこそはじめて問題と向き合えるような課題も多くなってきており、多様な経験、種々の分野の専門を持つ人たちが集うなかで、健全なリーダーシップを発揮できる人材が求められています。

海外留学を通じた学びや体験は、いまの若い人々へのこのような社会からの期待に応えるための有効な手段だと考えます。今回は、立教大学の国際化への取り組み状況の紹介を通じて、海外留学の意義について考えていきたいと思えます。

立教大学の国際化戦略

立教大学は、「グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力—世界で際立つ大学

への改革」をスーパーグローバル大学創成支援の構想に掲げ、急速に進む社会のグローバル化と変化する世界のニーズに迅速に対応するため、「カリキュラム」の改革、「学生意識」の改革、「ガバナンス」の改革の3つの改革を軸とした取組みを進めています。これらの改革の実行により、学生・教職員の流動化を最大化し、大学の国際通用性及び国際競争力を向上させるとともに、創造性と展開力を備えた自己変革力のある大学を目指しております。

このスーパーグローバル大学創成支援の構想は、2014年5月に公表した「Rikkyo Global 24」で示した国際化ビジョンを基礎とするものであり、その後、創立150周年にあたる2024年に向けた「VISION2024」を策定し、本学の建学の精神を現代的に捉え直し、未来に向けた道筋を明らかにしています。

立教大学は、創立以来、一貫してリベラルアーツと国際性に通ずる教育に取り組んできました。2017年からは、グローバル・リベラルアーツ・プログラム（GLAP）は、創立以来培ってきた本学の経験を結集し、立教大学全学の協力のもとで実施する新しいプログラムをスタートさせます。このプログラムでは、卒業までの間に1年間の海外留学を義務付けています。

スーパーグローバル大学創成支援も2016年度で3年度目を迎え、本学の国際化は制度・環境整備の段階から新たなプログラム実施の段階へと順調に進んでいます。スーパーグローバル大学創成支援構想の基礎となっている「Rikkyo Global 24」で掲げた2024年までの主要な数値目標と進捗状況は次の通りです。

「学生の海外経験率を100%へ」

2015年度通年で正課プログラム参加者934名、正課外プログラム参加者109名。

「外国人留学生数を2,000名に」

2016年5月時点 正規外国人留学生551名、特別外国人学生161名、合計712名。

「海外協定大学を300校に」

2016年5月時点 170校

海外派遣、受入れ、海外協定校開拓数、いずれも着実に増加しており、組織制度整備（ガバナンスの改革）、プログラム開発（カリキュラムの改革）、学生への周知（意識の改革）の取組みが効果を挙げています。

本学の国際化に関する主要な新規プログラムとして、グローバル教養副専攻、国際連携大学院（リンケージ）プログラム、GLAPが挙げられます。グローバル教養副専攻と国際連携大学院（リンケージ）プログラムは2016年度よりスタートしました。全学生を対象としたグローバル教養副専攻での副専攻の修了のためには、海外留学を含む海外体験が必ず求められます。

グローバル・リベラルアーツ・プログラム (GLAP)

GLAPとは、自ら考え、行動し、世界と共に生きるグローバルリーダーを輩出するため、立教大学の140年以上にわたるリベラルアーツ教育に基づいた新しい学びの形です。GLAPは独立した学部ではありませんが、学生が4年間所属する「コース」という位置づけです。英語により行われるリベラルアーツ科目を中心に独自に編成されており、原則として英語による授業科目のみの履修で卒業することができます。

多様な価値の併存する現代社会において、複雑な課題の解決には深い専門知識が重要であるだけでなく、広い教養を駆使して柔軟に対応できる思考力が求められています。特定の分野に偏らない学問領域（アーツ）を修得することにより、自由に「精神を解放」し「真理の終わりのない追求」を実践することが本学の建学の精神に通ずる「リベラルアーツ」です。混迷する現代や未来において、さまざまな課題に向き合うために必要とされる学びとしての「リベラルアーツ」と海外留学の組み合わせで、グローバルリーダーを輩出するプログラムを目指しています。

GLAPカリキュラム

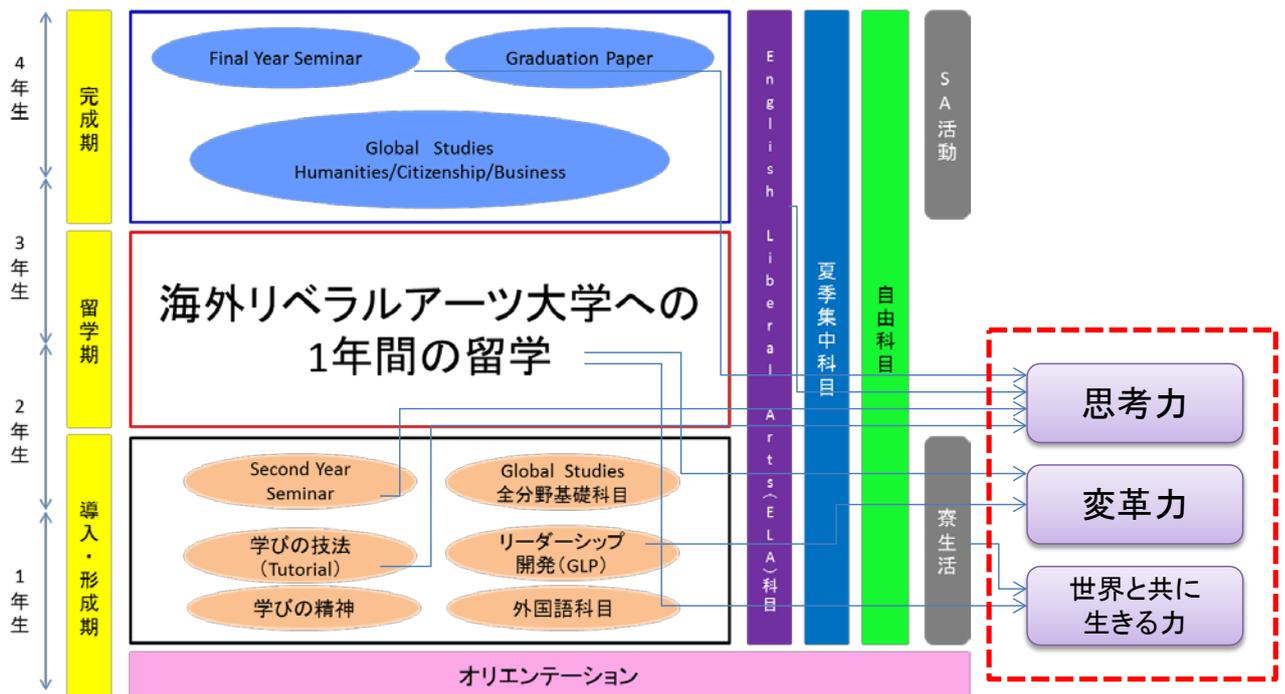


図1 GLAPカリキュラムイメージ

具体的には、GLAPでグローバルリーダーに必要な次の3つの力の修得を目指しています。

- ①課題に正面から向き合い、問題の本質を論理的に解明する力（思考力）
- ②変化が激しい社会に対応し、新しい仕組みを生み出していく力（変革力）
- ③異なる文化及び習慣を持つ人々と課題を解決していく力（世界と共に生きる力）

このために準備されている GLAP の 5 つの特長は次の通りです。

英語で学ぶ

GLAP とは、入学時から所属するコースの名称で、原則英語で授業が行われる科目の履修だけで学位の取得が可能です。GLAP に入学した学生は、4 年間 GLAP というコースに所属します。リベラルアーツは、自由に学問の世界を探訪し、視野を広げ、さまざまなものの考え方を理解する学びで、立教大学の教育の特長的なものです。GLAP では、リベラルアーツを英語で学び、日本にいながら常に「世界」を意識できる環境に身を置くことができます。特定の分野に特化した学修ではなく、複数の分野にわたって学ぶため、多様なものの見方・考え方を養うことができ、グローバル化が加速する社会において最も重要な、世界の人々と理解し合いながら協働する力を養うことにつながります。GLAP での学びや経験を通じて、英語によるコミュニケーション力、思考力、表現力など、実践的な英語力や卒業後に広く世界で活躍できる力を身に付けることができます。

少人数教育

GLAP は 1 学年 20 名で教員との距離が非常に近く、学生一人一人がきめ細かな指導を受けることができる教育環境です。1 年次の Tutorial では最大 5 名という超少人数で導入教育を行います。学生が自ら積極的に学修に取り組めるよう、文献講読やエッセイ・ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションなどのスキル、クリティカル・シンキングやアカデミック・ライティングなど、論理的思考の基盤となる力を身に付けます。また、グループワークとプロジェクト型学習を通じてリーダーシップスキルを育てる、立教大学独自のリーダーシップ教育により、メンバーと協働して課題解決を図る力を身に付けていきます。学生同士が学び合うと同時に、学生一人一人が世界の課題に当事者意識を持ち、さらには、自分を高め続ける意識が芽生え、率先して学ぶ姿勢へとつながります。

留学生との寮生活

2 年次の秋学期から始まる留学までは、留学先での寮生活を視野に入れ、GLAP 生全員が寮で生活します（全寮制）。大学の授業だけではなく、普段の生活も含めて密な人間関係を築き、刺激し合い、そして互いに切磋琢磨します。この寮では留学生も一緒に生活します。国籍も文化も価値観も異なる留学生たちと寝食を共にし、自主的に寮の運営も行うことで、多様なバックボーンを持つ人々と力を合わせて課題に取り組むという、貴重な経験を重ねていきます。寮で生活する時間が、国際性を育み、グローバルな感覚を磨いていく。それは、2 年次秋学期からの留学をより有意義なものにする貴重な経験となります。

1年間の海外留学

2年次の秋学期から3年次の春学期までの1年間、全員がGLAP生のために選ばれた海外の協定校に留学します。協定校はいずれも伝統的にリベラルアーツ教育に定評のある大学。GLAP生の未来を見据え、厳選した名門校です。留学にあたっては、アカデミック・アドバイザーと連携し、履修状況なども考慮して、留学先や履修科目を検討します。日本とは異なる環境で、多様な文化や習慣に触れ、他者と共に学ぶことは、自らの新しい可能性を発見すること、英語によるコミュニケーション能力を向上させること、そして国境を越えた幅広い人的なネットワークを形成することにもつながります。

帰国後の専門教育

留学からの帰国後、GLAP生は引き続き、複数の分野にわたる科目を履修しながら、より広い視野を身に付けていきます。同時に、1年次からの学びや留学経験などを経て、自らが特に興味や関心を持った領域について、「Humanities」「Citizenship」「Business」という3分野から選択し、より深く学びます。4年次には、4年間の学びの集大成として、「Final Year Seminar」を履修するとともに卒業論文（Graduation Paper）の執筆に取り組みます。

GLAPは、立教大学における新たな取り組みです。自由に学問を探究するリベラルアーツの精神は、さまざまな課題に向き合う思考力や変革力、さらに異なる価値観を持つ人々と共に生きる力を養います。海外留学を含むGLAPが、未来を担うグローバルリーダーのためのプログラムとなるよう立教大学は努力していきます。

グローバルリーダーへの期待

まとめとして、変化の激しいグローバル社会において求められるリベラルアーツ、および協働できるリーダーの役割について考えてみましょう。

大学は、理想の明日を追い求める機関です。予測困難で複雑化した現代社会において、その理想社会を追い求めるためにも、大学が果たすべき役割はますます大きくなっています。新たな問題にチャレンジする若者が朽ちることのない学びに切磋琢磨する環境を用意できるのも大学です。将来にわたり学び続ける基礎を固め、健全な批判的精神を養い、あふれる情報の中で真実を追い求める探究心を身につけるリベラルアーツ教育こそ、いままさに求められる教育だと立教大学では考えています。さらに、世界中の仲間たちとチームを組み、ゴールを目指すリーダーシップを兼ね備えた人材が必要とされ、協働できるグローバルリーダーを多く輩出することが現代社会の大学の役割です。

立教大学は140年を超える教育と研究の歴史を持ち、リベラルアーツを重視した教育を行ってきた実績を持っています。このようなりベラルアーツ教育に伝統ある大学が、世界に直結する形で新た

なグローバル・リベラルアーツ・プログラムをスタートさせることは、日本における高等教育の在り方に大きな変化をもたらすものと期待しております。第2次大戦後に日本の大学が日本に対して果たしてきた貢献は大きなものがあります。一方、グローバル化した世界において十分な対応ができていない部分が少なからずあります。立教大学のこの新たな取り組みは、日本の良き伝統を踏まえた日本発のグローバルリーダー育成プログラムです。思いやりがあり謙虚でありながら、確固たる自信を持つグローバルリーダーがここから育つことを期待しています。

留学生とともに過ごす寮生活、海外留学での学びや様々な体験を通じて、多様性への理解を深めるとともに、「いつでも、どこでも、だれとでも」、身につけた専門性をきちんと発揮できる自信を高めてほしいと思います。地域で活躍するためにも、グローバルへの理解が必要で、またグローバルに活躍する際にも、それぞれの地域への理解や各自の立ち位置への理解が求められます。このようなローカル・グローバルへの理解を深めるために海外留学はとおきの手段だと思えます。明日を担うグローバルリーダーとして羽ばたくため、多くの若い人たちが海外留学に飛び立つことを願っています。